

伊佐爾波神社（湯月八幡宮）

松山市道後湯之町御飯屋山

◎ 主祭神 仲哀天皇、応神天皇、神功皇后、三柱姫大神（田心姫神・湍津姫神・市杵島姫神）

◎ 由緒 三五五年仲哀天皇、神功皇后道後温泉に御来浴の行在所跡に出来た神社といわれ、式内社である。

長く伊予の豪族河野氏の崇敬が厚かった。

近世初期、松山城主加藤左馬之助嘉明、霊夢をみて、社殿を修復した。

◎ 現在の社殿八幡造り。重要文化財。

松山城主四代目の松平隠岐守定長公は、かねて弓の名手としての誉れが高かった。寛文二年（一六六二）の春、江戸城で競射を命じられた。射損じては面目丸つぶれとあって、定長公は湯月八幡に祈願をせられた。「石清水八幡と同じ建物を建立するから金的を射させ給え」と。

ある夜、夢枕に八幡さまがお立ちになって、「私の指図通りにしなさい。必ず射止めるであろう」と言われた。

当日になって、諸大名居並ぶ中で定長公は弓に矢をつがえ、きりりとしほって、八幡様を祈念した。すると金の鳩が目の前を飛んだ。これこそ八幡様の御指図と、矢を放つと、見事金的に命中した。

定長公は面目をほどこしたのであった。

祈願をせられた通り、定長公は飛驒の工匠を招いて八幡造りの社殿を建立したのであった。時に寛文七年（一六六七）。建築は江戸時代初期ながら、よく桃山時代の遺風を継承しており、金箔をはった円柱、彫刻を抱いた蛙股、海老虹梁など極彩色の豪華な建造物である。

宇佐八幡宮（大分県）石清水八幡宮（京都府）の八幡造りとともに、わが国に三例しかない整った八幡造りである。

本殿は外陣、内陣とも切妻造り松皮葺き、内陣は神明造り、外陣は流れ造りの建物二棟が、外陣と内陣との軒先で密着して出来ている。その部分は雨樋が通っている。

外陣正面には階段が三カ所に設けられ、それぞれ向拜がある。

この本殿を取り囲んで廻廊があり、正門には楼門がある。楼門を入れて神前に進むと、そこは廊下であり、本殿の手前が申す殿になっている。

これらの結構がすべて整っているのが、正式の八幡造りである。

四力年の歳月と八千万円の費用をかけて、解体復元修理を行い、去る四十五年十一月、江戸時代初期の偉容を再現した。

◎ 伊佐爾波の岡

万葉集卷三の三百二十二番歌は、山部ノ赤人が伊予の温泉に來た時の歌「伊予の高嶺の伊佐爾波の岡に立たして……」である。

伊佐爾波の由來については、神様をお祭りする神聖なところを「沙庭」というが、それに美称の「イ」がついたものとする説がある。異説は「伊予風土記」にのっている。聖德太子の温泉碑を人々が見ようとして「いざない來た」ことからだというのである。

聖德太子は推古天皇二年（五九四）道後温泉に來られて、湯の岡の碑を建てられている。

◎ お祭り

五月十七日。早苗祭り。早苗や農具の模型をお供えとして祭り、五穀豊饒、天下泰平を祈願した。

六月三十日。夏越し。暑い夏を健康で過ごせるよう祈る。

十月六、七日。秋の例大祭。七日は神輿の宮出しがあり、賑わう。

◎ 主な祭典日

歳旦祭 一月一日

元始祭 一月三日

紀元祭 二月十一日

社日祭 春分に近いツチノエの日

天長祭 四月二十九日

早苗祭 五月十七日

社日祭 秋分に近いツチノエの日

例大祭 十月六、七日

綿着祭 十一月十五日

大祓式 十二月三十一日